

第1次活動基本方針

同窓会の活動は、近年、組織改革を中心に大きく変革をとげつつあります。しかし組織には「つねに進化が求められ、停滞は即ち後退」ともいいます。それだけに実績のうえに新しい成果を積み上げて前進する必要性をつよく感じます。この認識のもとに同窓会全体に関する課題の解決について活動基本方針(グランドデザイン)を策定し、内部の意思統一とともに組織の拡充と改革を図るものです。

なお、各項目末尾のカッコ内はテーマの担当主幹特別委員会を意味します。

I. 同窓会結成の目的を活動原点に、組織力の強化を一。

- 1) 同窓会結成目的の「会員相互の親睦」を原点に同窓会組織の拡大を図り、「同窓会の輪」を拡げます。
- 2) 現状の支部単位組織「たて組織」に、部・サークル別、卒年次学部別、職域別などの団体に参画を呼び掛けて「よこ組織」として加え、「たて組織」とも連携した新しい組織を作り組織力の強化を目指します。
- 3) 同窓会は、「大学教育の充実発展に寄与すること」を目的に(財)同友会を設立しました。いま更なる「組織の簡素化とパワーの結集」を目的に同窓会と(財)同友会を併合し、法人組織を生かした「かたち」での新たな組織体を検討していくものです。

(組織、総務、校友、同友)

II. 財政的基盤の強化と確立に向けて一。

- 1) 同窓会活動および大学の隆昌発展に寄与するには財政的裏付けが必須と考え、同窓会の財政的基盤の強化・確立を推進します。
- 2) このために募金の種類と納入方法にも多様化をはかります。例えば募金の種類では寄付金に「目的を持った寄付」のほか「一般寄付」などを加え、また納入方法では維持会費の「銀行自動引落とし方式」、「コンビニエンス・ストア振込み」、「支部集金」などの方法を検討していきます。

(財務、組織、校友)

III. 大学の支援には「三位一体」の体制を取り入れて一。

- 1) これまで大学との結びつきは、大学を軸に「大学一同窓会」、「大学一後援会」と個々別々の関係でした。この関係を一体感と信頼感のある「三位一体」の体制を提案します。また、大学からの同窓会に対する積極的な提言を期待します。
- 2) 体制の運営は、三者に「運営調整担当」を置き、三者の最高責任者らによる「三者懇談会」を設けて課題の協議と解決にあたります。

(校友、総務、広報)

IV. 東亜同文書院大学のよき伝統を継承しながらー。

- 1) 「愛知大学の誕生は東亜同文書院の存在なくしてありえない」という歴史のもとに、同窓会は特別会員である東亜同文書院同窓会「滬友会」の意向に「組織」として対応していくことを理念とします。
- 2) 東亜同文書院大学記念基金については、滬友会役員の退陣に備え、大学からの要請を待って運営に参画し、「滬友の伝統」を尊重しながら基金事業の永続的発展に寄与していきます。
- 3) 加えて、愛知大学の創立に拘わる文化的遺産の継承に遺漏がないよう留意し、関係組織間の話し合いの場と同窓会の役割があるならば、課題解決のために尽力します。

(企画、組織、同友)

V. 同窓会三拠点の性格付けと役割・機能を明確にー。

- 1) 同窓会は豊橋(同窓会記念会館)ー名古屋(同窓会フロア・同窓会事務局機能)ー東京(連絡事務所)の三拠点を持っています。これらの拠点の役割を明確にし機能が有効に働くことを検討します。
- 2) 霞ヶ関官民ビルは2007年度(平成19年)の完成予定で、愛知大学東京拠点の移転も計画されています。三拠点「豊橋ー名古屋ー東京」の効果的な連携により愛知大学ならではの情報発信基地ともなりえます。経営戦略的観点からの検討課題と提起します。

(総務、財務、企画)

VI. 母校の「隆昌発展」のためにー。

- 1) 大学は「自己改革によってのみ生き残りうる宿命にある」と考えます。幸い、母校はエクセレントな大学になるための無形の財産に恵まれており、同窓生が誇りうる大学に発展できると確信します。
- 2) 同窓会は、母校が建学以来の経緯を踏まえつつ管理運営組織のあり方に検討を加え、経営と教学の「分業」及び市場論理への対応に取り組む姿勢を支持します。そのような母校に同窓会は支援を惜しむものではありません。

(同友、広報、財務)

VII. 大学と「社会とのつながり」を求めてー。

同窓生の母校愛による支援には自ずと限界があるものと認識します。母校が社会構成の一員として一般企業並の経営感覚のもとに良質な教学サービスを提供し、高い「外部評価」を得て「産学官の連携」に取り組むとき、同窓会はその活動のなかに「企業とのパイプ役」など役割を見出し側面から支援するものです。名古屋地区に見られる活動はその萌芽であり、三拠点の役割・機能が生きるものです。

(広報、企画、同友)

VIII. 広範囲課題は、特別委員会が対応ー。

同窓会本部には、同窓会内部からはもとより大学当局をはじめ各種関連団体などからさまざまな申し入れや課題が寄せられます。それらは会長独自のみでは処理不能なものも少なくありません。これらの課題対処については、関連する特別委員会が担当して、或いは各特別委員会と連携のもと処理していく方法とします。

作成：2004年9月 4日、企画委員会
検討：2004年9月25日、常任理事会
提案：2004年11月14日、理事会
検討：2005年 2月26日、正副会長会議
提案：2005年 3月 6日、全国支部長会議
検討：2005年 5月14日、常任理事会
提案：2005年 5月14日、理事会
報告：2006年6月25日、全国総会